

「丈夫なイネ・うまいコメづくり」を実践し、高品質・安定生産を実現しよう!

- ◎ **稲わらは秋すき込みを！たい肥・土づくり資材を施用しましょう！**
- ◎ **稲わら・粃がら焼却はやめましょう！**
- ◎ **玄米の盗難対策を徹底しましょう！**

平成 29 年度の稲作の始まり！「元気な土づくり」

1 早めに稲わらを分解させましょう

- 稲わらの秋すき込みを積極的に行いましょう。春すき込みは、ワキの発生等により初期生育の抑制につながりやすくなります。

Point ~ すき込みは 10 月中旬頃までに ~

- ア 分解促進のため、微生物活動が盛んな収穫後の早い時期にすき込みましょう。
- イ すき込む深さは、5~10 cmの浅うちとし、腐熟を促進させましょう。
- ウ すき込み前に、腐熟促進剤や土づくり資材を施用するとより効果が高まります。

2 たい肥や土づくり資材を積極的に施用しましょう

- 近年、ケイ酸不足やリン酸分の減少傾向のほ場が増えています。土づくり資材を施用しましょう。
- 家畜糞たい肥などの有機物の投入は、地力増進や土壤物理性の改善に効果的です。
- チゼルプラウによる粗起こしは、透水・排水性を向上させ、翌年の乾土効果が期待できます。



チゼルプラウ

【低コストな土づくり】水田へのもみ殻施用

- 収量を 540 kg/10 a とした場合、粃すりにより得られるもみ殻は約 135 kg となり、ケイ酸を 24~27 kg 含み、ケイカルでは 80~100 kg 分に相当します。ケイ酸質資材として有効に活用しましょう。

Point ~ もみ殻は稲わらと一緒に秋すき込み ~

- ア 当該ほ場で得られたもみ殻を散布量の基本とし、その他に不足する成分の土づくり資材を追加施用しましょう。
- イ もみ殻は稲わらと一緒に秋すき込みしましょう。
- ウ すき込み後はほ場の排水性を良くし、もみ殻の分解を促進させましょう。
- エ ごま葉枯病・稲こうじ病・墨黒穂病が多発生したほ場のもみ殻や、雑草種子の混入が多いもみ殻の施用は避けましょう。